



記者発表資料	
令和4年10月21日	
担当課 (担当)	文化交流課 福山・城市
電話	30-8021 (内線 2818)

## 第47回（令和4年度）鳥取市文化賞受賞者および贈呈式について

### ～奨励新人賞を創設～

昭和51年から鳥取市の芸術・文化の振興に顕著な業績を上げた個人または団体に対し、文化賞を贈呈しています。このたび、5名の受賞（文化賞3名、文化賞奨励新人賞2名）が決定しましたので、受賞者および贈呈式についてお知らせします。

なお、今回から、若手芸術家の発掘と育成を目的として、新たに「文化賞奨励新人賞」を創設しました。

#### 1 鳥取市文化賞の種類

##### (1) 文化賞

- ア 美術・音楽・芸能・文芸・学術等の発展に貢献し、特に最近の活動が顕著であったもの
- イ その他とくに著しい業績があったと認められるもの

##### (2) 文化賞特別功績賞（平成25年～）

主な活動拠点が鳥取県外にあって、その活動が全国的に高く評価され、本市の美術・音楽・芸能・文芸・学術等の発展に大きな功績があると認められるもの

##### (3) 文化賞奨励新人賞（令和4年度～）

- ア 美術・音楽・芸能・文芸・学術等において、特に最近の活動が顕著であり、将来活躍が期待されるもの
- イ 年齢が概ね40歳以下であるもの

#### 2 鳥取市文化賞の受賞者

##### 【文化賞】

- 1 言水 抱泉（ごんすい ほうせん）氏 [書道]
- 2 鈴木 公弘（すずき きみひろ）氏 [文芸（川柳）]
- 3 花房 睦子（はなふさ むつこ）氏 [文芸（詩）]

##### 【文化賞奨励新人賞】

- 4 佐々木 友輔（ささき ゆうすけ）氏 [映像]
- 5 竹田 詩織（たけだ しおり）氏 [音楽]

※受賞者の詳細は別紙資料のとおり

#### 3 贈呈式

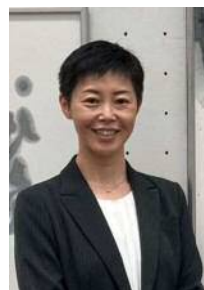
日 時：令和4年11月3日（木・文化の日） 午前10時～午前11時  
場 所：仁風閣 1階 随員控室

#### 4 その他

- (1) 昭和51年から第46回までに、125名と7団体が受賞されています。
- (2) 受賞者のあいさつ、選考経過報告につきましては、贈呈し当日の11月3日に行います。

## 第47回 鳥取市文化賞受賞者

ごんすい ほうせん  
言水 抱泉〔書道〕



### 【受賞理由】

長年、書道教諭として高等学校に勤務する中で、多くの書道人を育成しており、平成20年に第1回全国高校生大作展大作準大賞をはじめ、各全国書展において多数の入選者を送り出している。また、書道パフォーマンスでは、鳥取県における先駆的指導者として活躍し、平成24年の全国高校書道パフォーマンス選手権大会で初の全国優勝を達成するなど輝かしい成績を収めている。

個人としても、(公財)独立書人団主催の令和4年独立選抜書展において準会員賞を受賞するとともに、会員に推挙されたほか、(一財)毎日書道展でも毎日賞をはじめ秀作賞等々を受賞している。

### 【経歴】

- 平成 4年4月 鳥取東高等学校入学と同時に、柴山抱海氏に師事。
- 平成13年3月 新潟大学教育学部特別教科書道教員養成課程卒業。
- 平成16年4月 鳥取県立高等学校教諭として、鳥取東高等学校に赴任し、その後13年間同校に継続勤務。
- 平成17年3月 第28回鳥取書道連盟展にて新人賞の受賞を機に、鳥取書道連盟および鳥取県書道連合会の活動に取り組む。
- 平成20年1月 公益財団法人独立書人団主催第57回独立書展準会員昇格
- 平成28年4月 鳥取県立八頭高等学校教諭として赴任し、現在に至る。
- 平成29年4月 鳥取書道連盟理事長に就任し、現在に至る。
- 平成29年4月 山陰書人社、鳥取独立書人団事務局長に就任し、現在に至る。
- 平成29年4月 鳥取県書道連合会常任理事・審査員に就任し、現在に至る。
- 令和 2年 鳥取県美術展覧会において無鑑査に就任し、現在に至る。
- 令和 3年4月 岩美町立岩美中学校運営協議会委員に就任し、現在に至る。
- 令和 4年5月 鳥取市美術展審査員に就任し、現在に至る。
- 令和 4年6月 公益財団法人独立書人団主催 独立選抜書展において会員に推挙され、現在に至る。
- 令和 4年9月 一般財団法人毎日書道展において、規定により、来年度から会員へ昇格決定。

### 【受賞歴】

<個人>

- 平成16年1月 公益財団法人独立書人団主催 第52回独立書展 特選受賞
- 平成17年1月 公益財団法人独立書人団主催 第53回独立書展 特選受賞
- 平成20年1月 公益財団法人独立書人団主催 第57回独立書展 準会員昇格
- 平成28年7月 第68回一般財団法人毎日書道展毎日賞受賞
- 平成30年9月 第62回鳥取県美術展覧会 県展賞受賞
- 令和 元年9月 第63回鳥取県美術展覧会 県展賞受賞  
「あなたが好きな作品賞」受賞
- 令和 元年7月 第71回 一般財団法人毎日書道展 秀作賞受賞
- 平成17、平成27、平成30、令和4年  
第57、67、70、73回一般財団法人毎日書道連佳作賞受賞  
(規程により令和5年度から会員昇格)

令和 4年6月 公益財団法人独立書人団主催独立選抜書展 準会員賞受賞(会員推挙)

令和 4年8月 審査第15回全国公募書道展「放哉を書く」放哉大賞・鳥取県知事賞受賞

<指導者>

≪毎日新聞社毎日書道会主催 国際高校生選抜書展関係≫

平成18年 第14回国際高校生選抜書展  
鳥取東高等学校 シルス・オンサクル外務大臣賞受賞  
鳥取東高等学校 団体 地区準優勝

平成19、平成20、平成21、平成22、平成23、平成24年  
第15～20回国際高校生選抜書展鳥取東高等学校 団体  
地区優秀賞

平成25年 第21回国際高校生選抜書展  
【団体の部】鳥取東高等学校 中国地区優勝

平成28、平成29、平成30年  
第25、26、27回国際高校生選抜書展  
【団体の部】八頭高等学校 中国地区準優勝

≪公益財団法人独立書人団主催 全国高校生大作書道展関係≫

平成19年6月 公益財団法人独立書人団主催 第1回全国高校生大作書道展  
鳥取東高等学校 大作準大賞受賞(全国3位相当)

平成24、25、27年  
公益財団法人独立書人団主催 第6、7、9回全国高校生大作書道展  
鳥取東高等学校 大作優秀賞受賞

令和2、3、4年  
公益財団法人独立書人団主催 第14、15、16回全国高校生大作書道展  
八頭高等学校 大作優秀賞受賞

≪書道パフォーマンス大会関係≫

平成22年7月 第3回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会  
鳥取東高等学校 紫舟賞受賞

平成23年1月1日 第6回書道ガールズ甲子園第3位  
(主催：日本テレビ 撮影場所：とりぎん文化会館)

平成24年 第5回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会  
鳥取東高等学校 全国優勝

平成25年 第6回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会  
鳥取東高等学校 審査員特別賞受賞

平成29年 第10回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会  
八頭高等学校 出場

【主な活動】

平成 4年4月 鳥取東高等学校入学と同時に、柴山抱海氏に師事。

平成30年～ 因州和紙共同組合(4/21)をはじめ、国際ソロプチミスト鳥取(8/23)などの諸団体に対し、書を通じた若者育成について、書道パフォーマンスを題材とした講演を行う。

平成30年・令和4年

全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会、第11回大会と第15回大会において、解説者として招聘される。南海放送主

催の愛媛県内ローカル放送、全国地上波リアルタイム配信の番組において、出場校約 20 校の演技について実況、解説を行う。

- 令和 元年 9 月 第 63 回鳥取県美術展覧会 県展賞受賞作  
「あなたが好きな作品賞」受賞作 「静自適」(縦 223×横 53cm)
- 令和 3 年 1 2 月 第 33 回全国高等学校文化連盟研究大会(島根大会)において、書道パフォーマンスに取組んだ 12 年間の実践発表を行う。
- 令和 4 年 5 月 第 49 回山陰書人社展  
第 49 回展賞受賞作「輝」(縦 240×横 270cm)
- 令和 4 年 6 月 公益財団法人独立書人団主催 独立選抜書展  
準会員賞受賞作「舞」(縦 179×横 76cm)

### 【活動に対する思い】

形が重んじられる書の一般的概念に加え、本来、書が有する精神性、運動性、音楽性など、芸術のあらゆる分野に通ずる素晴らしさを多くの人に広め、更に書を楽しんで頂きたいと願っています。また、歴史に通ずる価値観を共有し、より鳥取の文化向上に少しでも寄与したいと思っています。

高校生への指導に対しても、書道パフォーマンスをはじめとし、書を通した感動や、新たな価値観との出会いを今後の人生に活かして欲しいと願っています。また、人との出会いや、仲間づくりを大切に、生涯を通して、書文化に親しみ、今後の社会を引っ張ってくれる人材になってくれることを願いながら、共に取り組んでいます。

鳥取書道連盟をはじめとする、地域社会全般に対しては、柴山抱海先生をはじめ、多くの方々のご指導を請けながら、鳥取の書文化がより豊かで、世界へ通用するものとなるよう、少しでも力になりたいと思っています。

また、何より自分自身が、書を通した人やモノとの出逢いを宝物とし、いつまでも成長し続けられる書道人であり、社会人になれるよう精進し、研鑽し続ける所存です。

### 【作品に対する思い】

師匠柴山抱海先生に出会い、書道人として、書作品や社会に対して、“求めるべき世界”というものを学んでいます。

歴史的価値あるものとして、この世に遺された普遍的な“美”を学び、個人的には、中国の書家・顔真卿や、日本の空海のような大きな骨格と、豊かで堂々とした作品を目指しています。また、柔軟性に長けた羊毛筆を使い、表現の多様性にも挑戦しています。

近年は特に、中国漢時代の瓦に刻された、直線的な古典をベースとして、直線的な効果を取り入れ、現代的な作品にすることを目指しています。

古典から学び、人から学び、書を通して深く、大きく、豊かな人間になりたいと願い、目の前の書に全力で向かっている段階です。

### 【現在】

鳥取県立八頭高等学校教諭

## 第47回 鳥取市文化賞受賞者

すずき きみひろ  
**鈴木 公弘**〔文芸（川柳）〕



### 【受賞理由】

40年近く川柳などの実作と研究、指導にあたり、県内外に広く知られる。

43歳の頃、日本海新聞柳壇に初投句、いきなり天位(第一位)を取る。その後、県内外の大会に投句、次々に入賞。作品は「真・情・美」に基づいた社会性のある作風が特徴。

平成3年には「くろぼこ川柳会」を立ち上げ、平成11年には日本海新聞柳壇選者、茗人賞選考委員となる。平成22年には全日本川柳鳥取大会の実行委員長を務め、全国から約600人の参加者があった。その後も、国民文化祭・きょうと大会や川柳展望全国大会(大阪)の選者を務める。

個人句集として「川柳作家全集・鈴木公弘」(新葉館出版)があるほか、総合雑誌「川柳マガジン」(平成27年)に作品100句と川柳論の特集が組まれるなど、全国で活躍している。

### 【経歴】

最終学歴 法政大学大学院社会科学部私法学専攻博士課程単位取得(修了)

職歴 労働法学、法社会学の研究に従事。日本労働法学会委員ほか歴任。学位論文ほか学術論文等複数。Uターン後は、民間会社監査役を経て気高町役場に入庁。役場退職後、(社福)あすなろ会参事。

### 【受賞歴】

(県内)鳥取県知事賞、鳥取県議会議長賞、米子市長賞、茗人賞準賞他。

(県外)兵庫県篠山市教育委員会教育長賞(全国大会)、青森県こけし川柳大賞他。

### 【主な活動】

(主な文芸活動歴)

平成 元年10月より短歌、川柳の独学自修を始める(のちに川柳に専念)。

平成 3年 1月 川柳結社『くろぼこ川柳会』創立(気高町)、現在に至る。  
全国結社「川柳塔社」同人・理事(現在に至る)・『治郎賞』  
『川柳塔賞』選考委員歴任。

全国結社「川柳展望社」会員・『展望賞』選考委員(ともに現在に至る)。

平成 3年12月 川柳大会初選者。

平成 9年 鳥取県川柳大会実行委員長(参加者数史上最多)。

平成10年度 鳥取県「一県民一文化」事業に伴う鳥取市教育委員会主催  
「川柳講座」講師。

平成11年 6月 日本海新聞『日本海柳壇』選者および茗人賞の選考委員に  
就任、ともに現在に至る。

平成13年 4月 第1回『春はくろぼこ川柳大会』開催、現在に至る(今春第  
22回開催)。

平成20年12月 一般社団法人全日本川柳協会常任幹事。

平成22年 6月 (一社)全日本川柳協会主催『第43回全日本川柳2010鳥取  
大会』実行委員長。

平成23年 1月 川柳結社『川柳同友会みらい』(鳥取市)創立、会長として

現在に至る。

平成3年、平成23年の川柳会創立以来発行してきた柳誌(県内唯一)の名称を『川柳いのちの詩』と改題し、現在に至る(今月、通巻377号発行)。

平成23年度 国民文化祭きょうと川柳の祭典選者(文科大臣賞・京都府知事賞の作品を選抜)。

平成7年度 国民文化祭かごしま薩摩川内こころの川柳大会選者(佳作賞選抜)

平成29年6月18日 (一社)全日本川柳協会理事(現在に至る)。

(この間、100を超える川柳大会選者を歴任、現在に至る。)

#### (出版)

個人川柳集『川柳作家 鈴木公弘』(新葉館出版)、年内に同社より別の句集発刊予定。

合同川柳集(鈴木公弘企画編集発行) 第I集『樹』・第II集『感性は我にあり』・第III集『そして。いま。』・第IV集『槌の音』(10月予定)

他者川柳集のプロデュースおよび編集。

#### (その他の主な文化活動)

平成5年度 文部省助成事業により『逢坂音頭』作詞(日本著作権協会・作詞部門登録)→宝塚歌劇団の協力により歌唱(テープ化)、舞踊振り付け。発表会開催。地区運動会(地区公民会主催)で総踊り。

平成19年 気高町主催『気高町民の歌』選考委員長(歌唱・紙ふうせん)。現在11時30分を知らせるメロディとして旧気高町全域に毎日流れている。

平成19年～平成21年度

鳥取県教育委員会「国語科」特別講師(小学校で短詩文芸を教える)。

#### 【作品に対する思い】

主に伝統川柳の「穿(うが)ち」作品。

- ・新聞初投句「米と炊く大根はもう作らない」(1989年10月日本海柳壇・天位)
- ・全国大会初投句「橋脚を刺されて島はいつ眠る」(1990年1月NHK広島大会・秀作賞)

#### 【活動に対する思い】

川柳活動を通して平和に理念を貫き、人間の真実、情愛、美意識を作品として表現する「いのちの詩」である、と説いている。

#### 【現在】

全日本川柳協会理事、鳥取川柳連盟会長、「川柳同友会みらい」主宰のほか、日本海新聞柳壇選者および茗人賞選考委員を務める。

## 第47回 鳥取市文化賞受賞者

### はなふさ むつこ 花房 睦子〔文芸（詩）〕



#### 【受賞理由】

幼いころから詩が好きで、気が付いたら詩を書いており「文学少女」と呼ばれていた。小学6年生の時、講談社発刊の「月刊少女クラブ」誌の部に投稿し、最優秀賞を受賞した。50年以上続く詩誌「菱」同人。また、日本海新聞「詩壇」の選者を15年務めるとともに、「鳥取文芸」など様々な選者として活躍している。

作品は、女性特有の繊細でナイーブなものとなっており、どの詩も言葉を見つめ、自身の経験や見てきたことを深い精神性で表現している。

#### 【経歴】

昭和45年 現代詩「菱の会」同人。のち33号より編集委員 現在214号。

昭和55年 「開花期」同人。その後「舟」にも同人となる。

昭和57年 鳥取市より「とっとり市報」の表紙にと花の詩を同人各位に依頼される。

平成9年～平成12年 朝日新聞鳥取版「文学書評」を担当。

平成10年 鳥取県現代詩人協会理事。

平成12年～令和3年 中四国詩人会理事。第19回中四国詩人賞選考委員。

平成17年～令和3年 日本海新聞「日本海詩壇」選者。

平成22年 中四国詩人会鳥取大会開催。

平成27年 鳥取県現代詩人協会交流会で「日本海詩壇あれこれ」を講演。

平成30年 「鳥取文芸」詩部門選者。令和2年より「倉吉文芸」詩の部選者。現代に至る。

令和元年 一般財団法人「日本詩人クラブ」会員。

令和2年～令和4年 「とっとり詩人」40.41.42号発行。

#### 【受賞歴】

平成18年 福井文芸祭にて作品「燠(おき)」提出入選。

平成25年 第2詩集「水灯り」出版、「白鳥省吾賞」最終候補になる。

令和2年 花話会主催編集「日本の詩人432人の詩姿の原点(3章)」に選ばれる。

#### 【主な活動】

昭和56年 第1詩集「鳥の空」出版。

平成24年 共著「とっとり詩集」発行現在9集。

平成25年 第2詩集「水灯り」出版。

平成29年～令和2年 「中四国詩集」共著

令和2年 面影小学校にて2年生に「詩の話」で教鞭を執る。

令和3年 第3詩集「石の中の森」出版。

令和3年11月 県詩人協会主催「詩の書展」4回展 ギャラリー夏色にて。

### 【活動に対する思い】

「詩とは何か」この事を私は常に考えていたはずなのに、身辺雑記や日々の感慨「あったこと」「やったこと」から抜け出せないでいる。いま一度信条としている「経験の総体」の深さに帰るべき思いでいます。

現況をしっかりと観察し、交じわることや思考に支えられていく詩を書きたいと思います。今や経験から離れていかない立ち位置が大切だからです。

### 【現在】

「中四国詩集」理事

「詩界」日本詩人クラブ会員

「とっとり詩集」鳥取県現代詩人協会理事

「倉吉文芸」選者



## 第47回 鳥取市文化賞奨励新人賞受賞者

### さ さ き ゆうすけ 佐々木 友輔〔映像〕



#### 【受賞理由】

東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了。博士(美術)。

映像作家、企画者として、映画による場所論、風景論、郊外論を研究。映画制作を中心に、論考や脚本の執筆、展覧会や出版の企画など領域を横断的に活動している。主にドキュメンタリーを手がけ、現在までに十数点の作品を制作してきた。最新作『映画愛の現在』は、オランダで開催された「第50回ロッテルダム国際映画祭」でも上映され、世界的な賞を得たことは評価に値する。

映画制作や自身の研究を通じて、鳥取のような地方のまちで映画文化が果たす役割の大切さを訴えており、鳥取市から映画を通して世界に発信できる人材として、今後の活躍が期待される。

#### 【経歴】

- 平成20年3月 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科 卒業
- 平成22年3月 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程  
(先端芸術表現専攻) 修了 修士(美術)
- 平成25年3月 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程  
(先端芸術表現専攻) 修了 博士(美術)
- 平成25年4月 武蔵野美術大学 美術館・図書館  
イメージライブラリー嘱託職員(平成28年2月まで)
- 平成28年3月 鳥取大学地域学部地域学科芸術文化コース  
講師(平成29年3月まで)
- 平成29年4月 鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コース  
講師(令和4年3月まで)
- 令和3年4月 鳥取短期大学専攻科国際文化専攻  
非常勤講師(現在に至る)
- 令和4年4月 鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コース  
准教授(現在に至る)

#### 【受賞歴】

- 平成15年4月 イメージフォーラム・フェスティバル2003  
一般公募部門大賞(『手紙』)
- 平成19年7月 平山郁夫奨学金

#### 【主な活動】

- 平成13年 6月 小池照男氏の主催するKAVC映像ワークショップを受講。  
実験映画・個人映画の制作を開始。
- 平成15年 4月 イメージフォーラム・フェスティバル2003(『手紙』)
- 平成15年 9月 第22回バンクーバー国際映画祭(『手紙』出品)
- 平成16年 1月 第33回ロッテルダム国際映画祭(『手紙』出品)
- 平成22年 6月 『夢ばかり、眠りはない』上映 於 UPLINK FACTORY
- 平成22年12月 『新景カサネガフチ』上映 於 イメージフォーラム
- 平成25年 5月 『土瀝青 asphalt』上映 於 原宿 Kineattic

- 平成27年2月 第8回恵比寿映像祭（映像インスタレーション  
《Asphalt + Camera Eye Myth - The Ride》出品）
- 令和元年11月 鳥取銀河鉄道祭（『映画愛の現在 アーカイブ』、  
『農民芸術の鑑賞』出品）
- 令和元年12月 『コールヒストリー』上映 於 イメージフォーラム
- 令和2年 2月 第13回恵比寿映像祭  
（映像プログラム「揺動 PROJECTS: Retouch Me Not  
[日本現代作家特集]」を荒木悠と共同企画。）
- 令和2年 9月 福島映像祭2020（『コールヒストリー』出品）
- 令和3年 6月 第50回ロッテルダム国際映画祭  
（『映画愛の現在 第I部／壁の向こうで』出品）
- 令和3年12月 第9回海に浮かぶ映画館（『コールヒストリー』出品）
- 令和4年 2月 第14回恵比寿映像祭（『映画愛の現在』三部作出品）
- 令和4年 7月 『コールヒストリー』上映 於 jig theater
- 令和4年10月 第20回リスボン国際ドキュメンタリー映画祭  
（doclisboa）（『映画愛の現在』三部作出品）

#### 【活動に対する思い】

ドキュメンタリー制作は、作品に出演してくださる方々の存在抜きには成り立たないものです。鳥取に暮らし芸術に携わる者の一人として、この土地の映画文化を守り育ててきた先達の活動に敬意を表し、その価値や意義を内外に伝え、受け継いでいけるような活動を続けていきたいと思っております。

#### 【作品に対する思い】

風景論争や地域映画史に関する調査研究をもとに独自の映画制作理論を構築し、現在の「日本」という場所で生きることを意味や課題を検討するための映画・ドキュメンタリー作品の制作を行っています。近年は、鳥取で自主上映活動を行う個人・団体にインタビューしたドキュメンタリー『映画愛の現在』三部作の制作や、イラストレーターClara氏との協働により鳥取にかつてあった映画館をイラストで再現するプロジェクト「見る場所を見る」など、鳥取の映画文化を掘り下げることを通じて、これまで大都市の事例中心で記述されてきた日本映画史の見直しを図っています。

#### 【現在】

鳥取大学地域学部地域学科国際地域文化コース准教授。

## 第47回 鳥取市文化賞奨励新人賞受賞者

### たけだ しおり 竹田 詩織〔音楽〕



#### 【受賞理由】

高校卒業までの18年間を鳥取市で過ごし、現在は東京に在住している。

東京藝術大学へ進学し、在学中様々なコンクールに上位入賞。

卒業後はフリーランスを経て平成24年東京交響楽団に入団。オーケストラ奏者としてのほか、ソロ・室内楽でも国内外において幅広く活動を行っている。

また、故郷での演奏活動も行っており、「もっと気軽にクラシック♪ワンコインコンサート」という、親しみやすい曲からハイレベルな曲まで手軽に聞けるクラシックコンサートを平成29年から開催。故郷鳥取市の未来を担うこどもたちのために音楽のすばらしさを伝える活動を続けている。

#### 【経歴】

〈東京藝術大学在学中〉

- 平成18年 東京藝術大学音楽学部器楽科入学
- 平成18年 いしかわミュージックアカデミーマスタークラス修了
- 平成21年 JT主催「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」へ選抜学生として Pf Quartet で出演
- 平成21年 Euro Music Festival & Academy Lipzig マスタークラス修了
- 平成22年 東京藝術大学旧奏楽堂「芸大定期室内楽」へ選抜学生として Pf Quartet で出演
- 平成22年 Pf Quartet で東京・金沢・鳥取コンサートツアー
- 平成22年 藝大選抜学生によるオーケストラでドイツ公演ツアー（高関健指揮）
- 平成22年 東京藝術大学卒業  
〈卒業後〉
- 平成22年 アザレアの街音楽祭オープニングコンサートにて「メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲」をアザレア室内オーケストラと協演
- 平成23年 鳥取県クラシックアーティスト・オーディション最優秀賞受賞記念演奏会  
「ストラヴィンスキー／兵士の物語」開催
- 平成23年 第33回鳥取市交響楽団定期演奏会にて「チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲」をソリストとしてオーケストラと協演
- 平成24年 東京交響楽団にヴァイオリン奏者として入団
- 平成26年 東京 松尾ホールにてリサイタル開催
- 平成27年 新潟りゅーとぴあ大ホール「1 コイン・コンサート」出演 (Vn Duo)
- 平成28年 東京交響楽団創立70周年ヨーロッパツアーにてポーランド・クロアチア・オランダ・オーストリア・ドイツ各国で演奏
- 平成29年 地元鳥取市にて「もっと気軽にクラシック♪ワンコインコンサート」主催
- 平成30年 鳥取県オーケストラ連盟演奏会にて「ブラームス／ヴァイオリン協奏曲」をソリストとしてオーケストラと協演ほか  
(入団以降現在までオーケストラ内外での演奏会出演多数  
※個人含め年間合計80公演以上)

## 【受賞歴】

- 平成16年 全日本学生音楽コンクール 大阪大会高校の部 第2位。同年日本クラシック音楽コンクール全国大会入選
- 平成17年 京都芸術祭「世界に翔く若き音楽家の集い」に於いて「京都市長賞」受賞
- 平成20年 日本演奏家コンクール 弦楽器部門大学の部 審査員特別賞
- 平成21年 横浜国際音楽コンクール 弦楽器部門大学の部 第2位
- 平成22年 第1回鳥取県クラシックアーティスト・オーディション弦楽器部門 最優秀賞
- 平成23年 第7回ルーマニア国際音楽コンクール アンサンブル部門 第3位 (弦楽四重奏)

## 【主な活動】

### 〈師事歴〉

ヴァイオリンを永見信久、田渕洋子、澤和樹、原田幸一郎、漆原朝子各氏に、室内楽を山崎伸子、岡山潔各氏に師事。

### 〈発売音源〉

UNAMAS レーベルよりハイレゾサラウンドレコーディングによる音源8タイトルが発売されており、Vivaldi/四季、Schubert/死と乙女を始めとしたアンサンブルの名曲を最新テクノロジーを駆使した最高のサウンドで聞くことが出来るとして好評を博している。

## 【活動に対する思い】

東京交響楽団のメンバーとして世界中の一流の音楽家たちや巨匠たちの音楽に触れるなかで得た経験や思いを、演奏機会の多い場所だけでなく地方都市でもアウトプット出来るような裾野の広い音楽家でありたいと常に感じています。

その為幼い頃より私のことを知り応援してくださっている方が多くいらっしゃる地元鳥取での活動は特に大切にしております。

## 【現在】

平成29年より主催している「もっと気軽にクラシック ♪ワンコインコンサート」は鳥取市民がこれまでよりもっと身近に本格的なクラシック音楽に触れる機会を作りたいと企画をスタートし、ワンコインという敷居の低さと内容の充実度が好評を博しこれまでに開催した全5回全て完売公演となっている。

また近年は鳥取県主催の演奏会にも積極的に参加し、ソリストとしての演奏活動のほか「TCO/とっとりチェンバーオーケストラ」メンバーとして演奏活動に参加。